



昨年から体調を崩されて入院を繰り返していた橋本先生は、十月十一日午後七時、入院先の札幌社会保険総合病院で多臓器不全のため逝去されました。享年八十四歳でした。心よりご冥福をお祈りいたします。

協 写 道

北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内
011-2105735(直通) 011-2073939(FAX)
<http://www.dosyakyou.org/>

第111号

橋本 博氏 (北海道写真協会顧問・審査会員) 逝去

長年にわたり多大な貢献

橋本 博先生を偲んで

副会長 武藤 省吾

橋本先生、今ここに北海道写真会すべての会員を代表し、お別れの言葉を申しあげなければならぬことは本当に悲しく、口惜しさで一杯です。先生の訃報の知らせを聞いたときは、とても信じられませんでした。今年八月に札幌市民芸術祭実行委員会写真部会の会議でお会いした時は大変お元気でした。しかし、今橋本先生のお写真を前に先生の言葉が永久に聞くことができないう現実に、ただただご冥福をお祈りするばかりです。同時に奥様はじめご家族、ご遺族の皆様にご心からお悔やみ申しあげることができたいです。

橋本先生は五十年余にわたり写真作家活動に参り加えられたが、この間北海道写真協会活動に参り加えられた大変大きな功績を残されま

た。先生は非凡な才能に加えて大変な努力家で一九五七年、北海道新聞社、北海道写真協会主催の第四回写真道展、第一部自由の部に三十二才の若さで初入選され、以来入選入賞を繰り返され、一九七二年には文部大臣賞を受賞されましたが、その写真は小樽の祝津岬を赤外カラーで表現するという新たな発想で、その時の衝撃は今でも忘れません。こうした実績が認められ一九七二年に写真道展の審査員として推薦され今日にいたっております。この間の先生の写真に対する情熱と審査員としてのたゆまぬご努力は確実にアマチュア写真家の皆さんの技術向上に大きな功績を残されたと確信しております。また卓越した指導力が認められ一九八五年には写真協会副会長として就任し、以来二〇〇七年退任まで二十二年の長きにわたりご尽力され、この間四十六・五十二回の写真道展審査委員長としての大役を見事につとめられるなど写真協会活動の発展に寄与されました。

一方先生は診療や協会活動の多忙の中、東京、札幌にて写真展を八回開催し、また写真集を二冊出版。加えてニッコールコンテストでは大賞二回受賞し一九七九年第二十七回には名誉ある長岡賞を受賞し、ニッコールクラブ札幌支部長、ニッコールクラブ名誉会員として活躍されました。



写真展「1970:冷戦下の東・北欧に行く」より

私も三十年余、橋本先生と北海道写真協会の役員として、一緒に活動させていただきましたが、先生の作品で一番心に響く写真展は一九九六年に札幌ギャラリーノルテで開催された「都市流転」です。先生の最も得意とするスナップ写真で札幌市民の生活をしゃれたカメラ視点で表現された作品。今でもしっかりと頭の中に残像として記録されております。このように先生には本当に親身になつてご指導いただき私の写真活動にとってかけがいのない恩人です。改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

先生との思い出はつきることがございませんがお別れの時が迫つてまいりました。私たちは先生の永年にわたるご指導、ご厚情をしっかりと受け止め、北海道写真協会の発展に全力を尽くしていくことをお誓いいたします。どうか私たちを見守ってください。橋本先生、安らかに眠りください。さようなら。(弔辞の転載)